



医療法人社団 唱和会

明野中央病院



2013年度 事業報告書 vol.7

(2013年4月～2014年3月)



ホームページもご覧下さい
看護部ブログも更新中

明野中央病院

検索

フェイスブックもチェック! いいね!

当院東側駐車場のウォールアート



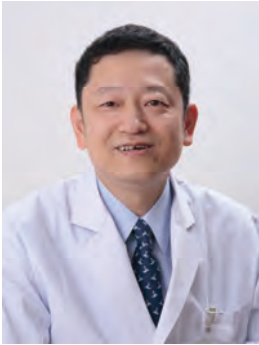
病院理念

医療・介護を通じ、患者さんの生活の質の向上に努める

基本方針

- 一．家庭的な優しい医療・介護の実施に努めます
- 一．地域の皆様から安心・信頼される病院づくりに努めます
- 一．患者さんひとりひとりの権利を尊重するように努めます
- 一．たえず医療・介護の質の向上に努めます
- 一．地域の健康増進・病気の予防に努めます

ご 挨 拶



院長 木下 昭生

2014 年、医療界に大きな風が吹こうとしています。わが国の公債残高が 2013 年 4 月現在で 754 兆円、国民一人当たり 592 万円、利払いだけで 1 日当たり約 271 億円、1 分間当たり約 1,882 万円となり、また、団塊の世代が後期高齢者の仲間入りをする 2025 年を 10 年後に控え、増え続ける社会保障費に国はストップをかけようと様々な施策を打ち出し始めました。「医療介護を改正する一括法案」が衆議院を通過し、都道府県が実質的な病床削減に乗り出し、いわゆる地域包括ケアシステムの構築を推進する名目で、高齢者を病院や施設から在宅での生活に転換させる枠組みを作ろうとしています。NHKは先日、NHKスペシャル“日本の医療は守れるか；2025 年問題の衝撃”と題してこの問題を扱っていましたが、番組を見るとやはり医療側と一般市民には大きな認識のズレがあると感じました。また、先日には、国が規制改革の一環として、混合診療を一部解禁する方針であることが明らかになりました。混合診療が進み過ぎると日本が誇っていた国民皆保険制度が崩壊する危機になります。我々は、黒船を初めて見た江戸時代の人々と同じ気持ちでこれらの変革に対処しないと大変なことになると思います。まさにここ数年は、我々医療に携わる者にとっては正念場になると感じます。

当院は、昨年秋にアクロスホールにて、京都の「わらじ医者」こと早川一光先生をお招きし、明野中央病院健康セミナーを催し多くの地域の皆様にご来場いただきました。改めて御礼申し上げます。

昨年 1 年間の当院の歩みをまとめた年報が完成しました。年報はこれで 7 冊目となりました。当院の状況を少しでもご理解いただければと思います。ご一読いただければ幸いです。



目 次

地域交流会（ふくろうの会）	1
ボランティアの会	3
病院概要	4
病院沿革	6
創設者 中村裕について	7
職種別職員数	7
組織図	8
年間行事	9
明野中央病院健康セミナー	12
明野クララ元気ツアー	14
花日記 ～2階ウッドデッキから～	22
今昔写真館	24
部門報告	
＜医療安全管理室＞	27
＜地域医療連携室＞	30
＜こつ・かんせつ・リウマチセンター＞	31
＜診療部＞	
内科	32
消化器内科	34
整形外科	35
麻酔科	38
診療情報管理室	39
＜医療技術部＞	
薬剤科	40
栄養科	41
リハビリテーション科	43
放射線科	47
臨床検査科	48
臨床工学科	50



<看護部>

看護部	51
外来	54
2階病棟	55
3階病棟	58
手術室	60

<事務部>

事務部	63
医療事務課	64

委員会報告

<委員会>

医療事故防止委員会	66
感染対策委員会	70
褥瘡・栄養対策委員会	72
サービス向上委員会	73
教育委員会	74

<その他>

N S T（栄養サポートチーム）	76
糖尿病相談会	78
深部静脈血栓チーム	79
禁煙サポートチーム	81
親和会	83

新聞報道	85
------	----

新入職員1年を振り返って	94
入職5年を振り返って	94
入職10年を振り返って	97
入職25年を振り返って	98

地域交流会（ふくろうの会）

1. 設立目的

当院は、病院理念に「医療・介護を通じ、患者さんの生活の質の向上に努める」を掲げ、地域の皆様から安心信頼される病院作りを目指し日々努力しております。さらに今後も真に地域に根ざした医療機関として皆様方の期待に応えられる病院としてのあるべき姿を模索しております。

そこで、広く地域の皆様方と意見交換を行い、医療全般に関する苦情、要望、地域の病院として当院の果たす役割等についてご意見を頂きたく設立しました。

2004年9月発会。

2. メンバー 2014年3月現在（敬称略）

湯田 国男 （ふくろうの会会長・明野さつき町自治会長）

中山 満 （明野日の出町自治会長）

岩崎 祐一 （明野高尾自治会長）

首藤 和也 （明野東町自治会長）

小柳 義明 （明野旭町自治会長）

飛河 克子 （日本リウマチ友の会大分支部長）





第 15 回 明野中央病院・地域交流会（ふくろうの会）

2013 年 6 月 7 日（金）12：30～13：30

1. 院長あいさつ

2. 昼 食

3. 当院の近況報告

大東中学職場体験

9 月 13-14 日

第 30 回糖尿病相談会 ～塩分摂取量とカロリーコントロール～

11 月 17 日

第 7 回九州放射線医療技術学術大会にて発表（池田義弘）

11 月 23-25 日

附属中学職場体験

12 月 4-6 日

新春落語 県南落語組合大分支部

1 月 12 日

第 16 回大分県作業療法学会にて発表（古谷辰徳）

2 月 3 日

回復期リハビリテーション病棟協会 第 21 回 研究大会 IN 金沢にて発表（岡次恵）

2 月 28 日-3 月 2 日

第 32 回 食事療法学会にてパネル発表（中村佳子）

3 月 1-3 日

看護学生卒業式

3 月 7 日

第 45 回 九州リウマチ学会にてポスター発表（佐藤美津子）

3 月 9-10 日

第 31 回糖尿病相談会 ～あなたに合った具体的な個別の減量計画～

3 月 25 日

看護の日 中学生一日看護師体験

5 月 11 日

ボランティア活動

4. 明野中央病院健康セミナーについて

5. ご意見交換

6. 湯田会長ごあいさつ

※ご出席者（順不同）

湯田 国男 様（ふくろうの会会長 明野さつき町自治会長）

中山 満 様（明野日の出町会長）

岩崎 祐一 様（明野高尾町会長）

小柳 義明 様（明野旭町会長）

※当院出席者

木下院長

中村副院長

藤川こつ・かんせつ・リウマチセンター長

里谷事務長

鈴木看護部長

安部総務課長

ボランティアの会

1. メンバー 2014年3月現在（敬称略）

会 長 志水 篤信

副会長 赤田 久代

加来 邦子

高平 潤子

田代 千枝

倉住 れい子

高木 美和

坂井 礼子

石田 洋子

佐々木 友江

2. 活動内容

- ・ グリーンボランティア
- ・ 各種イベント企画
- ・ ガーデンティーパーティー
- ・ 講演会手伝い等



活動報告会



花壇の植え替え



一日看護師体験



ガーデンティーパーティー



ボランティアの皆さん



病院概要 (2014 年 3 月現在)

診療科目	内科／整形外科／リウマチ科／消化器内科 形成外科／リハビリテーション科／麻酔科（森正和）／放射線科
病床数	75 床（一般） 2 階病棟 一般：45 床（亜急性期病床 10 床含む） 3 階病棟 回復期リハビリテーション病棟：30 床
研修施設	日本整形外科学会研修施設 日本手外科学会研修施設 日本リハビリテーション医学会研修施設 日本高血圧学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設
学会認定 専門医・指導医	日本内科学会 専門医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医 日本整形外科学会 専門医 日本脊椎脊髄病学会 指導医 日本手外科学会 専門医 日本リハビリテーション医学会 指導医 専門医 日本リウマチ学会 指導医 専門医 日本消化器病学会 専門医 日本消化器内視鏡学会 専門医 日本神経学会 専門医 日本麻酔科学会 専門医 日本集中治療医学会 専門医



施設基準

7 : 1 入院基本料
診療録管理体制加算
医師事務作業補助体制加算
急性期看護補助体制加算
退院調整加算
救急搬送患者地域連携受入加算
病棟薬剤業務実施加算
回復期リハビリテーション病棟入院基本料 1
亜急性期入院医療管理料
入院時食事療法(I)
糖尿病透析予防指導管理料
外来リハビリテーション診療料
ニコチン依存症管理料
薬剤管理指導料
検体検査管理加算(II)
CT 撮影及び MRI 撮影
外来化学療法加算 I
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
運動器リハビリテーション料(I)
呼吸器リハビリテーション料(I)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術
輸血管理料 II
輸血適正使用加算
麻酔管理料
がん治療連携指導料



病院沿革

1974(昭 49)1 月	医療法人社団恵愛会 大分中村病院の分院として開院。(病床数 65 床) 同時に『救急指定病院』『労災指定病院』の指定取得
1978(昭 53)11 月	『医療法人社団唱和会 明野中央病院』として、分離独立
1997(平 9)3 月	社団法人日本整形外科学会認定医制度による『研修施設』認定取得
1999(平 11)5 月	第一期増築工事完成 (病床数 70 床) バイオクリーンルーム設置 ヘリカル CT 設置
1999(平 11)7 月	身体障害者福祉法第 19 条の 2 の規定による『更生医療を担当する医療機関』の指定取得
2002(平 14)年 6 月	第二期増築工事完成 (病床数 75 床)
2002(平 14)年 7 月	MRI 設置
2002(平 14)年 9 月	パワーリハビリテーション機器導入
2004(平 16)年 1 月	一般病床 45 床、特殊疾患療養病棟 (30 床) に変更
2004(平 16)年 3 月	『臨床研修病院』指定取得 (厚生労働大臣指定)
2005(平 17)年 9 月	一般病床のうち、8 床を『亜急性期入院医療管理料』として届出
2005(平 17)年 10 月	日本医療機能評価機構 認定取得
2006(平 18)年 4 月	『亜急性期入院医療管理料』を 8 床から 10 床に変更 院外処方箋発行開始
2006(平 18)年 9 月	マルチスライス CT 設置
2007(平 19)年 2 月	特殊疾患療養病棟 (30 床) を回復期リハビリテーション病棟 (30 床) に変更
2008(平 20)年 1 月	日本手の外科学会 基幹研修施設に認定
2008(平 20)年 10 月	回復期リハビリテーション病棟入院料 1 (重症患者回復病棟加算)
2009(平 21)年 7 月	『こつ・かんせつ・リウマチセンター』開設
2009(平 21)年 11 月	『日本リハビリテーション医学会 研修施設』に認定
2010(平 22)年 4 月	『日本高血圧学会 高血圧認定研修施設』に認定 『日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設』に認定
2010(平 22)年 9 月	『日本リウマチ学会教育施設』に認定
2010(平 22)年 10 月	日本医療機能評価機構 Ver.6 更新

創設者 中村裕について



創設者 中村 裕（1927 年～1984 年）

1951 年	九州大学医学部卒業 同大学整形外科医局に入局
1960 年	英国ストーク・マンデビル病院に留学
1961 年	第 1 回大分県身体障害者体育大会を開催
1964 年	東京パラリンピックの日本選手団長を務める（以降、1980 年までの全ての夏季パラリンピックの団長を務める）
1965 年	大分県別府市に、障がい者の自立を目的とした「社会福祉法人 太陽の家」を設立
1975 年	第 1 回極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会（フェスピック）開催
1981 年	第 1 回大分国際車いすマラソン大会の開催に尽力
1984 年	死去 享年 57

当院は、1974 年 1 月に創設者であり前理事長である中村裕により開設されました。中村裕は、日本ではまだ「リハビリテーション」という言葉も普及していなかった昭和 30 年代に当時の医療先進国イギリスに渡り、最新の医療事情、特に障がい者の社会復帰のためのリハビリテーションと障がい者スポーツを学びました。その経験を日本に持ち帰り、1965 年に障がい者の社会復帰を支援する社会福祉法人「太陽の家」を創設しました。整形外科の医師としては、大分中村病院（1966 年 12 月）と明野中央病院という 2 つの病院を開設し、障がい者スポーツの分野では、東京パラリンピックや極東・南太平洋障害者スポーツ大会（フェスピック）などの開催に尽力しました。1981 年の国際障害者年を記念して中村の提唱により始まった「大分国際車いすマラソン大会」は、すでに長い歴史を刻み、今では世界最高レベルの障がい者スポーツ大会として世界中の車いすアスリートの目標となっています。

職種別職員数

139 名

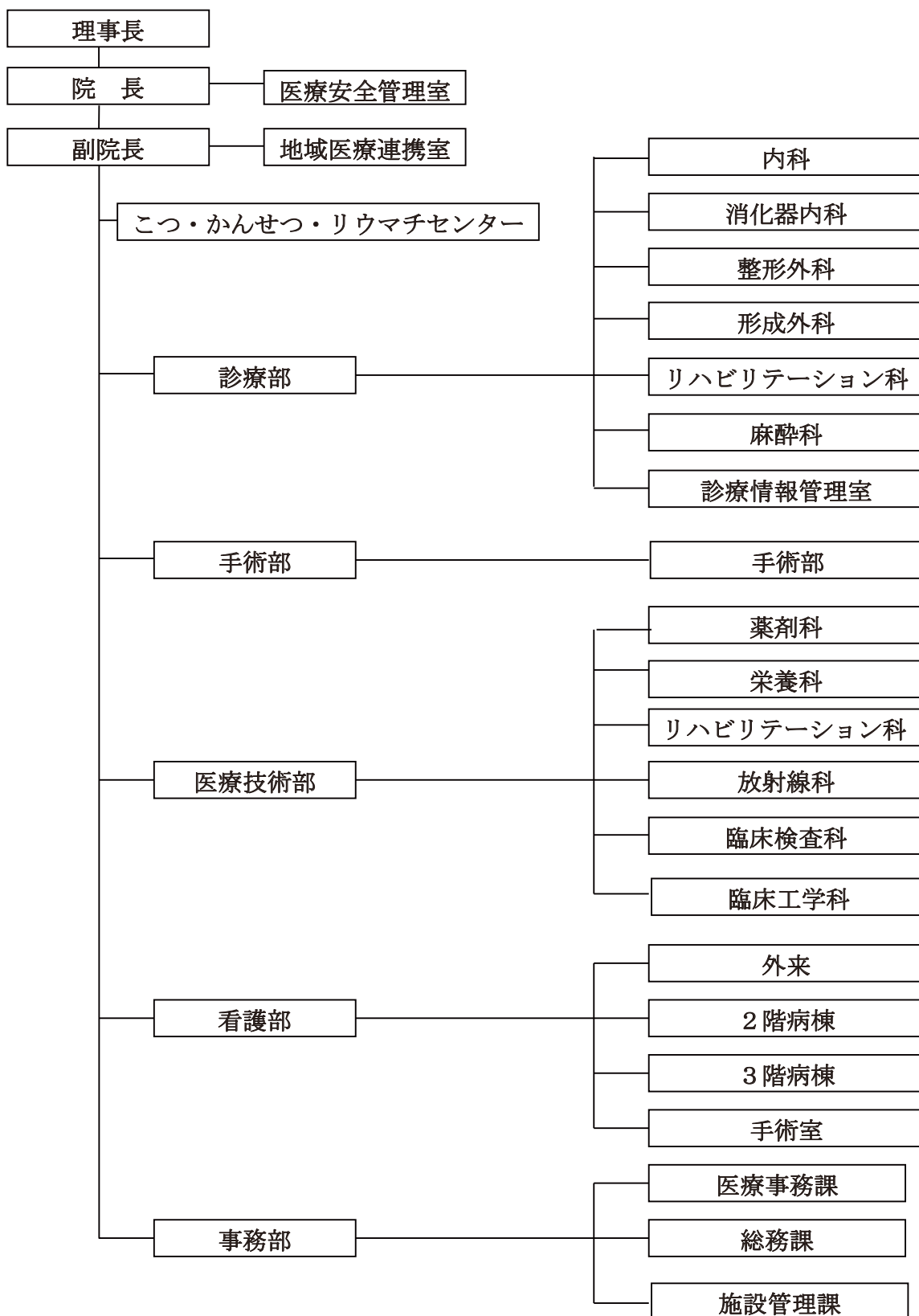
（2014 年 3 月 31 日現在）

医 師	7 名	診療放射線技師	3 名
薬 剤 師	3 名	臨床検査技師	3 名
看 護 師	60 名	臨床工学技師	1 名
准 看 護 師	7 名	管理栄養士	2 名
看護業務補助者	16 名	医療ソーシャルワーカー	1 名
理学療法士	11 名	事務職員	18 名
作業療法士	5 名		
言語聴覚士	2 名		



組織図

2014 年 3 月 31 日



年間行事

2013 年 4 月 ○親睦会

2013 年 5 月 ○中学生一日看護師体験
○第 11 回 ガーデンティーパーティ
○院内感染対策研修会



中学生 1 日看護師体験



ガーデンティーパーティ

2013 年 6 月 ○第 15 回 ふくろうの会
○防災訓練
○個人情報・地域連携研修会
○第 8 回 ボーリング大会



防災訓練



ボーリング大会



2013 年 7 月 ○明野中学職場体験
 ○N S T 研修会



明野中学職場体験



N S T 研修会

2013 年 8 月 ○慰霊祭

2013 年 9 月 ○大東中学職場体験
 ○職員旅行
 ○医療安全対策研修会



大東中学職場体験



職員旅行(沖縄)

2013 年 10 月 ○第 12 回 ガーデンティーパーティ
 ○医療倫理研修会



- 2013 年 11 月 ○防災訓練
 ○院内研究発表会
 ○明野中央病院健康セミナー
 ○院内感染対策研修会



院内研究発表会



院内感染対策研修会

- 2013 年 12 月 ○忘年会

- 2014 年 1 月 ○新春明野寄席
 ○医療事故対策研修会



新春明野寄席



医療事故対策研修会

- 2014 年 2 月 ○認知症研修会（前期）

- 2014 年 3 月 ○認知症研修会（後期）
 ○病院総会

明野中央病院健康セミナー

89歳現役 京都の名物医師 “わらじ医者” 早川一光

“元気が出る” 講演会

11月24日(日)あけのアクロスタウン3階アクロスホールにて、恒例となりました「明野中央病院健康セミナー」を開催しました。今回は89歳現役、京都の名物医師“わらじ医者”早川一光先生の講演会を約500名のお客様を集めて行いました。90分にわたり歌や踊り、ユーモアを交えての講演は、まさに圧巻でした。笑ったり感心したりジーンと来たりで、お客様は大満足の様子でした。



どないしはつたん？
お元気ですか？

明野中央病院 健康セミナー

89歳現役 京都の名物医師 “わらじ医者” 早川一光

“元気が出る” 講演会

「総合人間学のススメ いきいき生活！ボケないひけつ教えます」

60年以上、医師として、いつも患者の人生のすそに寄り添ってきた早川一光先生。その豊富な経験に基づく、笑いと涙あり、歌あり、ダンスあり、歌、踊り何でもありの講演は、優しい京言葉で盛り上げ、人生の智慧、人間のすばらしさを教えるだけでなく、泣いて、笑って、心がすっきりして、元気に暮らせるヒントをもらえるでしょう。

日時 平成25年11月24日(日)
13:00~14:30

場所 あけのアクロスタウン
3階アクロスホール

参加費 無料 (どなたでも参加できます)

整理券をご持参下さい。整理券は明野中央病院受付・明野地区自治会連合会・明野校区公民館・あけのアクロスタウン総合案内で配布しています。

主催：明野中央病院 共催：明野中央病院ふくろうの会
後援：明野地区自治会連合会、明野校区公民館、南トキハインダストリー、大分合同新聞
OBS 大分放送、TOS テレビ大分、QAB 大分朝日放送

お問い合わせ 明野中央病院 電話 087-558-3211 mail: akonohp@fnet.coara.or.jp



明野中央病院 健康セミナー

89歳現役 京都の名物医師 “わらじ医者” 早川一光

“元気が出る” 講演会

医師。大正13年生まれ89歳。京都西陣や京都府北部の美山町などで60年以上にわたり地域医療の第一線で活躍。路地から路地への往診や深い農村での地道な医療実践により“わらじ医者”の愛称で親しまれる。現在は、京都衣笠に「わらじ医者よろず診療所」を開院。無料の医療相談を行う傍ら、全国各地での講演会や執筆活動など多方面で活躍中。公益社団法人「認知症の人と家族の会」顧問、毎週土曜日早朝の京都放送ラジオ生番組「早川一光のぼんざい人間」のパーソナリティを務め、放送開始以来26年間1日も休んだことがない。1980年、著書「わらじ医者京日記」で第34回毎日出版文化賞を受賞。1981年、この本をモデルにしたNHK連続ドラマ「とおりやんせ」(主演：田村高廣)が放映された。

早川 一光
(はやかわかずてる)

早川先生との出会い

昨年、明野中央病院では、こつ・かんせつ・リウマチセンター長の藤川陽祐医師が中心となり、12名のリウマチ患者さんのスイス旅行を支援する取り組みを行いました。医師、看護師、リハビリセラピストなどが患者さんと共に旅行計画を立て、障がいがあっても、車いすでも、周知な準備と適切な支援があれば、アルプスの雄大な風景の中を旅することができることを体験しました。その支援活動について、早川一光先生が、ご自身がパーソナリティーを務めるラジオ番組「ぼんざい人間」の中で取上げて下さいました。藤川医師が代表で、電話インタビューでラジオに生出演させていただきました。このことがご縁で、早川先生に今回の大分での講演を依頼したところ、快く引き受けていただきました。

— 明野中央病院 院長 木下昭生 —



木下 昭生



藤川 陽祐



客席を通過してさっそうと登場する早川先生



歌や踊りを交えた講演で聴衆を魅了しました

明野クララ元気ツアー

こつ・かんせつ・リウマチセンター長 藤川 陽祐

昨年「Akeno クララ元気ツアー」、Akeno ・Chalage (チャレンジ) して・Limitation (制限) がある中で・Akaruku (明るく) ・Rheumach (リウマチ) でも・Alps (アルプス) へ元気で行こうツアー (Clara はアルプスの少女ハイジに出てくる足に障害のある少女の名です) と名付けたスイスアルプスを目指す旅行に行ってきた。旅行に参加された患者さんにもとても喜んでいただいたが、この話を伝え聞いたもっと状態の良くない患者さん方も「ヨーロッパまで行けないが、どこかへ旅行に行きたい。」との声が上がった。そこで病院やスタッフにはまた迷惑をおかけすることになるが、第2回目を計画した。

「第2回・明野クララ元気ツアー」Akeno ・Chalage (チャレンジ) して・Limitation (制限) がある中で・Akaruku (明るく) ・Rheumach (リウマチ) でも・Asobi (遊びに) 元気で行こうツアーである。9月6日北海道へ向けて病院を出発した。福岡空港までのバスは車いす利用者には不便なバスであったが、スタッフの全面介助で何とか突破。無事福岡空港へ到着した。

札幌から小樽、函館まで道南の見どころと北海道のおいしい食事を満喫した。道内の移動は車いす対応のバスで、とても親切な運転手さんに手伝ってもらい快適に移動することができた。

昨年から始めたリウマチ患者さんとの旅行。我々医療スタッフも日常診療と違い、時間をかけゆっくりと接することができ、学ぶものも多い貴重な体験である。どこまで続けられるかわからないが、今後もできるだけ続けていきたい。



事前打ち合わせ



出発前 病院正面玄関前にて



明野クララ元気ツアーに参加して

参加者 : リウマチ患者 7 名、介助者 3 名
病院スタッフ : 医師 1 名、看護師 3 名、作業療法士 1 名、理学療法士 1 名

リウマチ患者さんの夢を叶える手助けになればと思い参加させていただきました。

行程を振り返って

- ・ 07:00 集合、前日の荷物チェックを全員で行い、化学療法室にまとめて置いていたにもかかわらず当日折りたたみ椅子を忘れる。
- ・ 大分にはリフトバスがないため通常の貸し切りバスで移動。
- ・ バスへの移動は、踏み台（10 cm・20 cmの高さ）漫画雑誌等を利用し昇降。
- ・ 自力で昇降できない場合は、ストレッチャー用マットに寄せ昇降。
- ・ 空港で機内用車椅子に乗り換える。
- ・ 北海道では、リフトバスのため車椅子ごと移動。車椅子の固定に時間を要した。
- ・ ホテルは完全バリアフリーではないため、段差には踏み台で対応。
- ・ 登別グランドホテルは、大浴場の浴室まで車椅子乗り入れ可能で浴槽内に繋がるスロープがあり介助しながら入浴することができた。
- ・ 車椅子専用のロープウェイがある事に感動。
- ・ 高速道路を利用しても一時間以上移動に時間を要し、リフトバスも古いためかなり揺れ、乗り心地が悪かった。
- ・ ホテルを出発する際、各部屋の最終確認をしなかったため座席マットや杖を忘れそうになった。
- ・ 小樽からアイヌ民族博物館に移動する際、悪天候に見舞われるが到着時には小康状態になり雨具装着で観光できた。
- ・ 小樽・函館ベイエリアは歩道の状態が悪く、車椅子の移動は苦労した。
- ・ 藻岩山・函館の夜景はとても綺麗でした。

今回の旅行は、国内旅行という安心感からか、参加される方たちの情報収集、必要物品の準備、宿泊先、観光先の情報収集を出発直前になってから始めました。スイス旅行経験者の方達からもアドバイスをいただきましたが、準備が遅いと指摘を受けました。まさにその通りで、大きなトラブルやアクシデントはなかったものの反省点ばかりが目立った旅行でした。一番の反省すべき点は、患者さんの状態把握が充分にできていなかった事です。いつも介助してくれている付き添いの方に全てお任せしていたため、患者さんが足を痛がっていた事に気がつきませんでした。移動距離も長い上、乗り心地も良くないバスの中で長時間座りっぱなしでは当然でした。足の下にマットを置いたことで痛みは緩和できましたが予測できたことです。なぜもっと早く気づいてあげられなかったのか、事前にもっと下調べをしなかったのかと後悔しています。付き添いの方にも負担をかけずにすんだと思います。



しかし、患者さんはいつも笑顔でありがとうと・・・他の方もちょっとしたことで喜んでくれる。そのくらい日常の中で制限、支障があるのだということがわかりました。長い辛い闘病生活の中でもいつも笑顔で頑張っているリウマチ患者さん。私も笑顔を心がけ、会えば患者さんにほっこり安心してもらえる存在になりたいです。

この機会を与えて下さった事に感謝申し上げますとともに、さらなる向上めざし日々努力していきたいと思っています。

外来 看護師 竹森 美穂子



バスの乗り降りにはいろいろな高さの踏み台を利用



五稜郭タワーから見た市街地

明野クララ元気ツアーに参加して

第2回明野クララ元気ツアーとして、リウマチ患者さんやそのご家族を含め16名で4日間の北海道旅行へ参加する機会をいただきました。昨年のスイス旅行の話を少し耳にしていたのですが、車椅子を押して患者さん達と一緒に旅行するという状況が全く想像つかず、私に手伝えることがあるのだろうかと思うと多くの不安がありました。今回の参加者は、10分程であれば屋外の歩行が可能な方から常時車椅子が必要な方まで、患者さんにより自立レベルに大きく差がありました。普段見る事が出来ない景色や食事に満足し、「楽しかった」「旅行に行けて良かった」という声を聞くことができ嬉しく思いました。日常生活場面で患者さん達自身が工夫して行なっていることが多く、私たちが思っている以上に手伝いが必要でなかったり、普段私たちが何気なく行なっている細かな動作が患者さん達には難しかったりという事が多くありました。しかしスタッフの手伝いのみでなく患者さん同士で手助け合うという素敵な場面も多く見る事が出来ました。

今回事前準備として患者さんの情報や宿泊先の情報をもっと多く入手できていればよかったかなと思います。しかし、患者さんにとっても同行したスタッフにとっても日常生活から離れた今回の旅行は良い機会となったのではないかと思います。今回の経験を踏まえ、病院の入院患者さんの入院中の生活から退院後の生活に向け活かしていきたいと思います。

理学療法士 梶原 美穂



羊ヶ丘展望台



アイヌ民族博物館



石原裕次郎記念館



洞爺湖



明野クララ元気ツアーに参加して

今回、第2回明野クララ元気ツアーに参加した動機は、リウマチ患者さんがどのように旅行を実施していくのかを知りたかったからです。参加するにあたり、楽しみでもありましたが、本当に旅行ができるのか、しっかりとサポートが出来るのかという不安の方が強かった事を覚えています。事前準備では第1回のツアーに参加したスタッフからアドバイスをもらって実施しました。

第2回明野クララ元気ツアーの参加者は、日常生活が自立している方から全介助が必要な方など様々でした。事前準備で介助方法などをスタッフ間で話し合い、様々な想定も確認し旅行へ出発しました。しかし、ホテルはバリアフリーであると聞いていましたが、実際は狭く、車椅子が通りにくい、観光地での車椅子トイレが狭いなどと、医療職の私達が考えるバリアフリーと他者のバリアフリーの視点が違うという事を感じました。このような問題点もあり、旅行中、私は「何か介助をしなければ…、何か手伝えることはないか…」などと参加者の心配ばかりをしていました。ところが、実際はほとんど介助しませんでした。しかも、ほとんどの参加者が普段は出来ない動作をしていました。例えば、階段が上れない方が杖無しで2階に上る、10分以上歩けない方が30分歩くなど、私は参加者の潜在能力にただただ驚く事ばかりでした。

なぜ、このような潜在能力が発揮されたのか旅行中に考えました。そこで、参加者の様子をうかがうと皆楽しそうに過ごされていました。その中でも印象に残ったのはとにかく笑顔だったことです。また、皆さんよく食べていたという事です。そのような様子を見て、私はある作業療法士の先生が学会で話していたことを思い出しました。「心が動けば体が動く、体が動けば心が動く」まさに今回の旅行は先生が話していた事であると感じました。

現在、リウマチの治療では生物学的製剤など最新の医療が発達してきており、患者さんへの負担は軽減してきています。しかし、今回の旅行で、医療（治療）だけではなく、このように楽しむ事も最先端の医療ではないかと思いました。一番大切な事は人生で目標（楽しみ）を持つこと、それと行動する事だと思います。それは、小さな目標でも良いと思います。例えば、歩けるようになって買い物に行く、仕事帰りにビールを飲む、などたくさんあると思います。

最後に、旅行後、参加者の方々からたくさん感謝の言葉をいただきました。その中で多かったのは「とても楽しかった」「元気になった」「食べつくした」「太った」などこちらも笑顔になれる言葉ばかりもらいました。本当に嬉しく思います。今後、今回の旅行での出来事を色々な方に伝えていくと同時に、心を動かすことのできるリハビリテーションが提供できるように精進したいと感じました。

作業療法士 山崎 翔太

明野クララ元気ツアーに参加して

3泊4日でリウマチ患者さんとその家族と一緒に北海道へ行きました。出発する前は不安で、前回クララツアーを経験された先輩よりアドバイスを頂き、患者さんの情報収集を行い出発に備えました。当日、まずバスに乗り込む際に、歩行可能なリウマチ患者さんには、高さ調整の為に本を重ねるなどの工夫を行うことで軽介助で乗り込んでもらう事ができました。歩行困難な方には移送シートを使用し介助にてバス内に移乗しました。宿泊ホテルでも、浴室の段差がリウマチ患者さんには困難であり、ある物で工夫し滑り止めを使用し転倒予防しました。

病院では、工夫しなくても廊下は広く段差もなく日常に困ることがありませんが、外に出ればバスに乗ること一つでも工夫が必要で、その患者さんが何処まで出来て何処までが出来ないのかを把握し、出来ないところをどのようにすれば出来るのか考え実行するという事を学びました。又、情報では車椅子と聞いていた人が「歩けそう」と一本杖を持ち、歩いており階段を昇っていたりと日頃出来ないと思っていた事が、環境や気持ちの変化で意欲的になり、患者さん自身を変えることが出来るのだと今回の旅行で気付かされました。

3階病棟 看護師 甲斐 恵美



羊ヶ丘



ドライブインかなや



ドライブインかなや



はこだて海鮮市場

明野クララ元気ツアーに参加して

明野クララ元気ツアーに参加して、日頃あまりリウマチ患者さんと関わる機会が少ないため、どのように関わったらいいか、どのようにお世話をしたらいいかととても不安でした。しかし、自分が思っていた以上に患者のみなさんは動いていたので介助を行うことはほとんどありませんでした。北海道旅行に行くまでは、リウマチの患者さんは介助が必要だと思っていましたが、実際一緒に行動を共にしてそんなことはないんだと知ることができました。北海道は移動が多く、距離も長いので、バスに乗っている時間がほとんどで、車内ではきつかったので、リウマチ患者さんもきついのではないかと思います。車内ではクッションなどを使用してきつくないように配慮を行いました。リウマチ患者さんはみなさんやさしい方で、楽しく過ごしているのを見て、今回の旅行に参加できてよかったです。この経験をこれからの看護で活かせるよう努力していきたいです。

手術室 看護師 加藤 啓

外出で気持ちを前向きに

介助者と医療関係者が協力 リウマチ患者が旅行



明野中央病院であった旅行報告会で発表する同病院こつ・かんせつ・リウマチセンターの藤川陽祐センター長

北海道旅行は9月6日から4日間、患者9人が参加。北海道の札幌市や登別市、函館市などを回り、温泉や海の幸などを堪能。医師や看護師、リハビリスタッフ7人も同行し、バスの乗降や移動、入浴の補助をした。

報告会には、明野中央病院でボランティア活動をする地元の住民も参加。旅行に同行した同病院「こつ・かんせつ・リウマチセンター」の藤川陽祐センター長が旅行の写真をスライドで紹介。医療関係者からは「今まで気が付かなかった日常生活や施設設備の不便なところなどを学べる機会になった」などの意見が出た。

旅行に参加した大分市内の女性(61)は「旅行は好きだが、迷惑を掛けるのではと不安があり、二の足を踏んでいた。今回の旅行は多くの人の協力があり、心も体もゆっくりにして楽しめた」と笑顔。

藤川センター長は「病気だからと家に閉じこもるのではなく、少しリスクはあるかもしれないが、外に出て気持ちを前向きにすることが大切。来年以降も希望があれば、実現させていきたい」と話した。

県内のリウマチ患者が、介助者と明野中央病院(大分市)の医療関係者の協力の下、4日間の北海道旅行を実現させた。昨年のスイス旅行に続く長期旅行で、17日に同病院で報告会があり、参加した患者は「今まで旅行は諦めていたが、介助もあり楽しかった」と笑顔で旅の思い出を語り合った。

リウマチは、関節の痛みや骨の変形などのため、階段の上り下りや長時間の歩行が困難になる。介助者の支援や車椅子での移動が必要な患者もいて、重度になると、外出や旅行を諦めたりする人も多い。昨年は、海外旅行に行きたいというリウマチ患者の希望をかなえようと、医療スタッフが入念な準備をして、スイス旅行を実現。今回の北海道旅行も患者の提案を受け、前回のノウハウを生かして実施した。

10月26日 大分合同新聞

北海道を満喫し笑顔のツアー参加者＝明野中央病院のブログから



夢の旅行 今年も北海道

今年も北海道へ――明野中央病院（大分市）のリウマチ患者が自ら企画し、スタッフがサポートして旅行に出掛ける「Akenoクラ元気ツアー」が昨年に続き行われた。関節の変形などで長時間歩くのが難しいリウマチ患者の「旅行に行きたい」という願いで始まり、昨年は5泊7日でスイスへ。今年は9月6日から3泊4日、札幌市などを回った。

【田中理知】

リウマチ患者が企画

3泊4日 終始笑顔

医師、看護師がサポート

大分・明野中央病院

「一生に一度でもいい、さんは、退院したその広い大地の北海道に行きたい」。同病院に「連れて行ってください。ハビリで通っていた津田」。藤川さんは快く田中さん（76）に大分市鶴崎の懇願を受け、ツアーは、患者が行け、同病院医師の藤川陽祐さん（55）は「手術が終わったら行きましよう」と約束した。無事に手術を終えた津田

6人が参加し、札幌や函館を巡るコース。食べ放題のカニは食べやすいように殻を割っておく、浴槽まで車いすで行ける温泉施設を予約する――など手配してくれた旅行会社のプランや、病院スタッフがサポートする。今年、スタッフの介助で実現したい」と話した。

18日に同病院で報告集会が開かれ、患者やスタッフから「来年もぜひ行きたい」との声が上がった。津田さんは「気軽に申し出たことがすぐ実現できるなんて……病院の先生たちには感謝の気持ちでいっぱい。何と自由な旅で、本当に楽しい4日間だった」と終始笑顔。

花日記 ～2階ウッドデッキから～

2階ウッドデッキの花だんにはボランティアの方々が育てた四季折々の花が咲いています。
傍らの「花日記」には多くの書き込みが・・・

結婚してはじめての妻の手術終了。これで痛みから開放される事を望む。実は20日が結婚35周年記念日だった。入院中で淋しい記念日になった。早く元気になって花のような笑顔を見たい。

今から次男の手術です。朝から落ち着かず・・・かくれて涙、涙です。今度、この部屋に来る時は、ベランダの花の色を楽しめるようになっていたい母です。



ありがとうございます。無事に手術は成功しました。私は妹ですが熊本から戻って来て良かったです。術後良好のようで安心しましたので、熊本に戻ります。兄を宜しくお願いします。

今日で4度目の来院です。母は異常がなく一安心しています。くもりですがテラスの花が色鮮やかに見えます。色々ありがとうございました。



雨が降って来ました。樹木に恵の雨ですね(実は花木が心配だった)。手術の経過も順調で今日は最高に良き日です。今から食事を楽しみに待ってます。

5歳の三男は朝からうれしそうです。先生を始め、スタッフの皆様、大変お世話になりました。入院中は息子がお見舞いに来る度、院内を走り回りご迷惑をおかけしました。すみません。療養中の皆様、早く良くなって下さいね。スタッフの皆様、これからもお身体に気をつけて頑張ってください。

手術の為、早めの入院です。妻と来院、検査を受け、緊張しました。色々と説明を受けました。頑張りたいです。



すごく毎日暑いです。お花も暑さで大変だろうけど、お手入れがよいのでしょうか。今日も元気にきれいに咲いています。心が和みます。

今日は父の見舞いに来ました。思ったより元気そうで安心しました。病院もきれいで暗くならないでよさそうです。テラスがすてきですね。早く元通りに歩けますように。

正面玄関のシンボル

明野中央病院 今昔写真

フェニックスの木

当院を訪れると誰もが
目にする大きな木があり
ます。

増改築などで少しだけ
場所を移動することはあ
りましたが、正面玄関前は
ずっと変わらず、毎日少し
ずつですが大きく成長し
ているのが90年代に撮
った写真で建物と比較す
るとよくわかります。

木の生長と共に私達も
地域の皆様や患者さんを
支えられる病院として大
きく成長して行きたいと
思います。



平成 26 年現在



玄関の位置は？

明野中央病院 今昔写真



古い玄関写真を見つけ、現在の風景との比較を掲載しようと思いましたが、場所が見あたりません。当院の先輩職員から場所を確認して位置がやっとわかりました。

現在皆さんの目にする正面玄関は増改築後に場所を移動した新しいものです。昭和 50 年代の避難訓練写真にあるように、今の診察室のある場所は以前道路になっており、写真右下奥あたりの部分に玄関があったそうです。

玄関も昔は多くの病院であった玄関で、靴を脱いでスリッパに履き替えて院内に入る形のです。

平成 26 年現在

